

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'98

6

月号【1日発行】



いまを話す

東京ガラス工芸研究所講師

工藤 直 さん

なぜ革でなかったシンデレラの靴
中原に夢づくり発信地あり



「いまを話す」ゲストの河井秀子さんが初個展

6月13日から 木彫で描くこどもたち

Stage Up 6 月号もくじ/1998年

■ほんねインタビュー いまを話す 3

東京ガラス工芸研究所講師 工藤 直さん

なぜ革でなかったシンデレラの靴

中原に夢づくり発信地あり

■はりきつてます グループ紹介 8

史跡・寺社を案内する

高津シルバーガイドの会

旋律に感情込め歌う

女声合唱団ゆり(麻生区)

●学習・文化情報 10

◆宅地建物取引主任者答案練習講座 11

◆川崎市民オペラの演奏会 12

◆佐藤征一郎バス独唱会 13

□会員募集/ミニニュース 14

□編集後記 裏表紙

◇表紙絵……くちなしの雨(麻生区虹ヶ丘で)——清水幹子さん

(小誌は再生紙を使用しています)

河井秀子人形展

木彫で描くこどもたち

小誌4月号「いまを話す」のゲスト、河井秀子さんの初個展が開かれます。さまざまな子供の姿を桐の木に託す河井さんへのインタビューは、たくさんの市民に感動を与えました。木にいのちを吹き込むような3カ月間の人形づくり。ぜひ、河井さんの個展をご鑑賞ください。

6月13日(土)～19日(金)

午前10時30分～午後6時

(日曜定休、最終日午後5時閉展)

和光 6階ホール(地下鉄銀座駅下車)

東京銀座

東京都中央区銀座4丁目5の11

☎03-3562-2111



呼出し

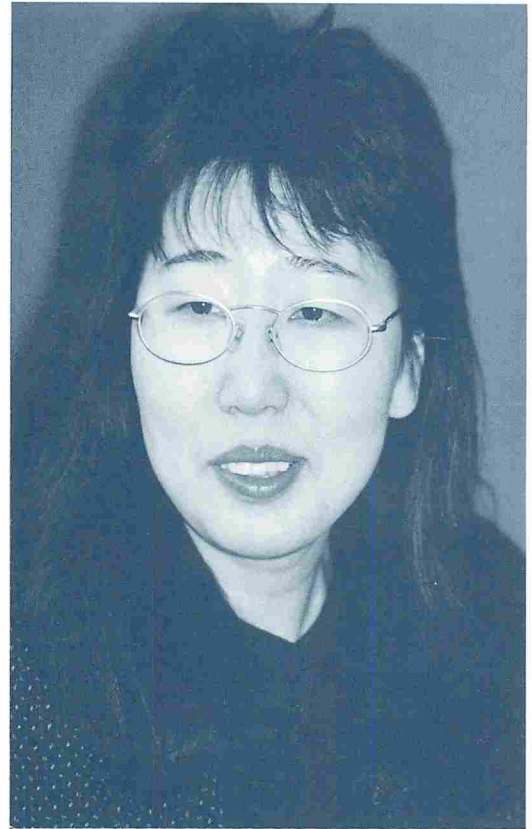
いまを話す

ゲスト

東京ガラス工芸研究所講師

工藤 直 さん

Vol.65



——私もガラス工芸が好きなので、工藤さんのお話、お聴きするのが楽しみです。

工藤さん (笑顔で会釈)。

——この三月「アートガーデンかわさき」で東京ガラス工芸研究所(044-434-2544)の卒業制作展があり、多くの若い人が興味深く見ていました。ガラスへの熱い思いを感じたのですが、工藤さん 私がガラス工芸を始めたのは十数年前です。そのころに比べ、観客も実際にやる人も大変増えて、うれしいことですね。

——ガラスを始められる前は、愛知県で国語の先生をしていらしたそうですね。

工藤さん はい。教師の職を三年続けました。職場が養護学校で、国語を教えるだけではなく、生徒の生活面も丸ごと抱え込むような毎日でした。それはやりがいのある仕事でした。けれど、女性として微妙な年齢にさしかかって、一生の仕事だろうかと考えたとき、違うような気がしたんですね。

——そのときは、ガラスの道はお考えになかったのですか。

工藤さん 充電期間ということ、実家の弘前(青森県)に帰り、その二年の間に、たまたま読んだ本が由水常雄先生の「ガラスの話」(新潮選書)で、そのとき、この学校を初めて知りました。

——東京ガラス工芸研究所創立者の由水さんの本ですね。運命的な出会いを感じますが、本のどこに心を動かされたのですか。

工藤さん 本を読んで、自分がこんなにガラスという素材に興味があったのかと思いました。それから、この学校が一から手作りで、創設された経緯を読んで、その熱意にすごくひかれました。さらに、

なぜ革でなかったジンドレラの靴

中原に夢づくり発信地あり

ガラス工芸の「本場」はヨーロッパ。川崎市中原区市ノ坪、東京ガラス工芸研究所(松尾敬子所長)では、ガラス技法のすべてが学べ、その担い手を育てている。工藤直さんはその講師。在校生百二十人が高熱の炉を前に格闘する。老朽化した校舎、手狭な作業場だが、学生は「毎日が発見、楽しい」。卒業生が、新設のガラスの学校や工房の講師、工芸家として国内外で活躍中なのもうなずける。だが、敷地の広さなど学校法人の要件を満たせず、私的機関に甘んじる。大阪市が来年、ガラス工房をオープン。麻生区の新百合ヶ丘地区に「芸術のまち」構想がある。ガラスへの全国的に関心が高まる中、川崎市は動くのか。インタビューは小誌・井上徳子。

モチーフ 動植物に託す自然再生 都市に生きる人間にも興味

生徒は老若男女を問わず、美術の教育を受けていない人でも「ガラス工芸はだれにでもやれる」とあり、勇気づけられました。

——本を読んで決心なされた。

工藤さん ガラス工芸は、普通の人がとっさに「自分は作れる」と思えない素材です。身近にあるガラスの器を見て「溶けたガラスを吹く」と想像できませんからそれが、だれにでも出来ると分かったとき「わあー」と思いました。

——開校は一九八一年。工藤さんは八四年の入学ですから、情熱を燃やして開校にこぎ着けた方々に出会い、教えられたのですね。



工藤さん そうです（大きくうなずく）。しかも、自分の知らない世界が毎日毎日開けていきますから、毎日楽しく、うれしかったですね。

——子供に知識を教える教師という立場から、ゼロから何かを生み出す作業に変わったわけですが。

工藤さん 自分の思いを伝えるということでは共通しています。教師のときは、自分の知識をどう伝え、理解させるかということと日々悩みました。いまは、ガラスを通して、メッセージを伝える作業をしているわけです。自分の思いをガラスでどう表現するのかということは、自分の人生、生きざまにかかわっているという気がしています。

——工藤さんの作品は、動物や植物をモチーフにしたものが多いように思います。作品を通して、伝えたいメッセージは「自然賛歌」でしょうか。

工藤さん 私の取っている技法は、吹きガラスで器を作って、その中に絵を描くというものなんです。私がいちばん関心をもって描きたいのは動植物よりも、都市空間なんです。冷たい、無機質な中に人間が生きている。そのすごさに大変興味があります。そこに出发点があって、その延長線上に、機能的になり過ぎた都市で、どんな人間性が失われ、自然破壊が



小誌 井上徳子

.....
進んでいる姿が浮き彫りになってきます。そうすると、どうしても今度は動物や鳥、植物の姿に美しい自然を託したいという思いが入ってくるんです。

——全く正反対のテーマの作品を制作されている意味が分かった気がしますが、自分の心の中の矛盾はないですか。

工藤 直さん

くどう・なお=1955年、奈良県生まれ。79年立命館大学文学部卒。3年間、愛知県の養護学校で高校の国語教師を務める。84年、東京ガラス工芸研究所基礎科（中原区市ノ坪）に入学。87年同研究科修了後、同研究所講師に。91年、女子美術大学工芸科講師、98年から助教授。学生に教えながら制作を続け、個展「Glass NAO」を毎年開催。87年から93年まで毎年、日本現代工芸美術展入選（会友）。89年、神奈川県美術展特別奨励賞受賞。金沢国際ガラス工芸展など公募入選。横浜市在住。

工藤さん その矛盾がイコール人間であり、なおかつ、その中に加担している自分がいるという気がしています。

——いまは情報化社会。ニューメディアの操作で、知りたいことを画面に出せる便利さがありますが、その一方で、手作りにこだわる人も増えていますが、この現象をどう思われますか。

工藤さん いろいろな要素があると思います。バブル期が過ぎて「不景気だ、リストラだ」ということになりますと、働き盛りのときに、すでに人生の先が見えて

ほんねインタビュー



▲「Noah's puppet」



▲「増殖」



▲「FOOD CHAIN」

しまい「会社はあてにならない」と分かってしまう。つまり、自分や家族という小さな単位が、人生とか生活の基本なのだ。そこでやっていたことは「手を動かしてモノを作る」という人間の根本のところになるんでしょね。

——人間が生きる上で大事な要素が、自分の手による創作ということですね。ガラスと出合ったころと、現在では「モノを作る」といって、変化はありますか。

工藤さん 最初のころは、ガラスと格闘しましたが、いまはある程度思いのままに扱うことができ

ます。でも、作品を生み出すということのつらさ、ずーっと続いて決して楽になりませんね。

——そのつらさがあると同時に、作品完成時の喜びもひとしおと思います。工藤さんの作品はガラスを何層にも重ねてそれを削っていく方法ですが、構想はどのように練っていかれるのですか。

工藤さん どういう色を使い、図柄を描くか、最初に決めておかないと途中で変更できませんから、吹く前にしっかりとプランと緻密な計算が必要です。

——ここで、東京ガラス工芸研

究所がどうして川崎にできたのか、お話しいただけますか。

工藤さん 創立者である由水常雄先生は、美術工芸史がご専門です。学生のころからガラスに興味を持ち、ガラスについて学びたいと思っていました。しかし、ガラスを学ぶ学校がまだ日本には無く、結局、企業に入られたのですが限界を感じて、チェコのプラハへ行かれたんです。ヨーロッパのガラスには古い伝統があつて、王立の学校もあるくらいです。日本の現実との違いに驚かれたそうです。

——それに触発され「日本にガ

ラスの学校を」と……。

工藤さん 最初は、カルチャーセンターでガラス工芸とその歴史を教えていらしたのですが、受講生の中にたまたま、現在の所長の松尾敬子が受講していたのです。ご主人が川崎胃腸病院の院長で、ここ市ノ坪で開業していたのです。そのころ、移転計画が進んでいて「病院だった建物をガラス学校に」と申し出て下さったそうです。

——そのご好意で、川崎に日本で初のガラス工芸の学校が……。

工藤さん ガラスの技法というのは、十四くらいあるんです。しかし、かつては、その一つ一つの技法をマスターするには、小さいころから弟子入りして、職人が体で覚えていくやり方でした。その慣習が長い間続いていたのです。ですから、ここであらゆる技法が一通りマスターできるということがは画期的なことだったのです。

——いまは、ガラス技法を学ぶ所は他にありませんか。

工藤さん ガラスを二年間専門に教えているのは、富山の公立ガラス造形研究所があり、この四月に東京・木場に東京国際ガラス学院ができ、日本では三方所です。

世界的にも数少ない すべての技法習得校

大学の専門コースで扱っているところが何か所かあるくらいです。

——中原区の学校は貴重な存在ですが、川崎市民には、あまり知られていませんね。

工藤さん 私どものアピール不足もあると思います。創立間もないころ、川崎駅前のデパートで卒業制作展を開きましたが、市民の関心が薄かった事情もあります。

——その後、東京で開いたそう

です。**工藤さん** 観客数がかなり違い、関心の高さが違うんです。この学校の基本姿勢として、在学時から作品を評価してもらって経済的自立のためにも、作品を販売し、販売ルートでの勉強をする——です。

その点からも、東京で展示会を開いたほうがメリットが大きいのは事実です。学生の作品を継続して見て下さる方、買って下さる方が多いと私たちの励みになります。

——新百合ヶ丘(麻生区)で毎

年、アートフェスティバルがあり、東京ガラス工芸研究所が「しんゆりアート市」にブースを出していらっしゃると思いますね。

工藤さん ええ。それは三年前からです。また「アートガーデンかわさき」での卒業制作展は二年目になります。それに川崎区の浮島処理センターでのガラス教室(生活環境学習室主催)など東京ガラス工芸研究所をアピールして

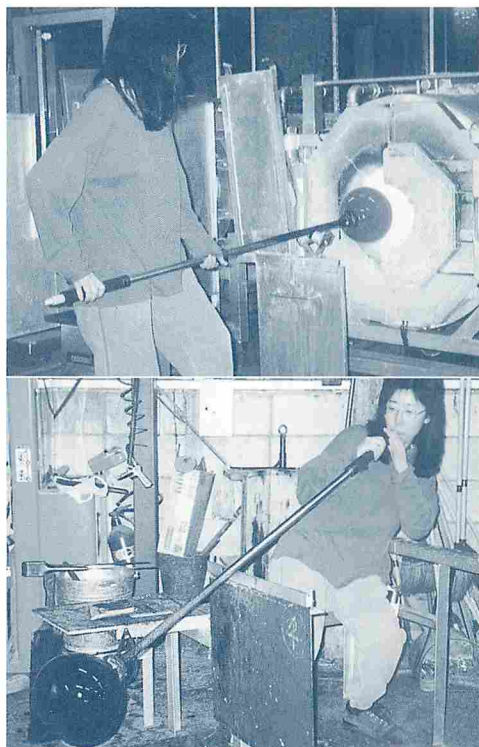
きました。川崎でも、少しずつ評価が高まっていると思います。

——卒業生はすでに五百人以上だそうですね。その方々の活躍は。

工藤さん 新しくできたガラスに関する学校に行くとは必ず卒業生が活躍しています。海外で活躍している人も結構いますし、国際コンペでも多くの賞をとっているんです(目を細め、楽しそうに)。

——「作り手の第一人者は、ここから生まれる」といえそうですね。工藤さんは講師をなさりながら、作品作りをしていますか。

工藤さん 成り行きで講師になったという感じです。私、卒業の時に吹きガラスでやっていこうと



電気炉で溶けたガラスを吹きサオに巻き取り回しながら息を吹き込む(提供写真)

決まっていました。吹きガラスは一人ではできませんし、設備の問題もあります。それと、若い人達に接していると、教えていることを自分がどう実践しているのかを示さなければなりません。逆に、自分には想像できない発想を見せつけられ、刺激になるんです。

——工藤さんの作品は、光を通して飾っておきたい感じがします。実際に食卓で使うような実用的なものはお作りにならないのですか。

工藤さん 実用的な作品は、コンスタントに作る事ができないと駄目なんです。私は教えながら、自分の作品作りをするので、制作時間が夜とか休日集中して、制作形態として無理なんです。私の作品は、生活の中のゆとりの部分で「ああ、いいな」と感じてもらえたら、と思っています。装飾的ガラス工芸は「ないから生活に支障がでる」ことはありませんが、心の要求として「やっぱり、ここに置こう」と思わせるようなものであったらと思います。

——生活の中の潤い部分、とても大事ですが、新百合ヶ丘駅周辺に「芸術のまちづくり構想」があるんです。ご存じでしたか。

ガラス房 もの作りは人間の根本的欲求 ガエ生 涯学 習にピット



ヶ丘に学校を移転させ、専門学校としての条件を満たして、新スタートしたらいと思いますが、誘致の話はないのですか。

工藤さん 残念ですが、ありま

工藤さん 知っています。所長の松尾も、芸術のまちづくりの機会に出て、熱心に意見交換をしているようです。でも、区の長や行政の担当者が交代するたびに、話が一からやり直しのようですね。

「芸術のまち構想」のある新百合二十人の学生が学んでいます。しかし、率直に言って、建物の老朽化が進み、教室も狭いですね。

せん。この学校が学校法人として認可されていないこともあって、何をすることも厚いんです。海外から講師を呼びたくても、また、海外から留学希望があってもなかなか受け入れることができないんです。

——ビザが取れないんですね。

工藤さん そうです。実績を示しても理解していただけない。

——海外からの留学希望は多いのですか。

工藤さん 多いです。一つの手法を教えるところはあっても、ガラス工芸のすべての手法を教えるところは世界でも少ないんです。

——世界へ「川崎に行けばガラス工芸が学べる」ことがPRできれば、川崎市のイメージアップになりますのに、残念ですね。

工藤さん ええ。当面は、川崎の市民と行政の方に、東京ガラス工芸研究所という学校をよく知っていただき、ガラスを楽しむ土壌



を少しずつ育てていきます。実際、この学校で一般の方を対象にガラスの教室をしているのです。毎回抽選になるくらい盛況なんです。行政が少しでもお力を貸して下さいといのですが。

——ちょっととした、きっかけから「芸術のまちづくり」が動きだし実現することもありますね。

工藤さん 公的機関がガラス工房を持つところは増えて「ガラスの知識、技術を教えてほしい」という依頼がたくさん来ています。

大阪市は「クラフト活動遊拠点」と銘打って「クラフトパーク」が来年オープンします。構想から三年と聞いています。徳島、愛媛にも同じような拠点があるに……。

——川崎市の2010プランに、二一世紀を開く九つの課題のなかに「市民同士が学び合える地域社

会」と「市民主体の個性的で文化的土壌の形成」ということが明記されていますが……。

工藤さん 素晴らしいプランに勇気づけられました。ガラス工芸はそれにぴったりです。「『芸術のまち』は構想倒れ」との厳しい見方もあるようですが、二つの課

題は、生涯学習の時代の課題でもあるような気がします。歴史史に見ても、芸術活動がとぎれた時代はないのです。みんなが学び、作ることが出来る場所が必要です。

市民ニーズは多様化し、ガラス工芸をやってみたくもたくさんおいてなると思います。

——本日は、透き通った芸術のお話、ありがとうございます。

題字は高橋清・川崎市長
構成／富樫 恭子
文責／田中 園
カメラ／山本 綾子

お知らせ 工藤直さんの個展

「Glass NAO」は、九月に「ガラスギャラリー・カラニス」(地下鉄表参道駅下車。☎03-3406-1440)で開く予定で、準備をすすめています。七月中に日程が決まります。

はりきってます グループ紹介



身近な名所歩き ふるさと再発見

仲間と楽しむ

学び

活動する

生き生きと

ふれあいの森く妙法寺く線彫り地蔵く久末緑地の約二キロのコースを会員六人が案内した。これは高津市民館からの依頼。

集合場所のプラザ橋で参加者にコースを説明した後、メインガイドの山田代表を先頭に出発した。会員は、参加者の質問にすぐに答えられるよう、列の中間や後ろに分かれて歩く。

蓮花寺に着くと、仁王像、五百羅漢、佛足跡の模様について、山田代表が穏やかな口調で解説。境内の「宝篋印塔」の前では「江戸時代、農民が年貢を軽減するよう街頭に嘆願し、十九人が殺された。犠牲者の霊を供養するために建立され、犠牲者名が刻まれています。私の名はありません」とジョークを交えて解説、参加者をなごます。

「これから先は急坂でぎついかもしれません。ゆっくり行きましょう」「後ろから車が来ましたよ。右に寄って下さい」と参加者に気を配り、声を掛ける会員たち。

蓮花寺横の坂を上ると市中部が一望できる所に出た。「こんないい場所があるなんて知らなかった」「地図では分からないものね。溝

口はどの辺かしら」と参加者たちは意外な「発見」に話が弾む。

同会は同館主催の「高齢者教室」で、郷土の歴史を学んだ人たちが二年前に発足させた。会員たちは区内をめぐる、五つのモデルコースとその案内書を作った。鎌倉や川越の先達グループを訪ね、案内方法も研究した。今は依頼があればいつでもガイドOKの実力。第三水曜日に同館で定例会を開き、分かりやすい案内を追求している。

中村ミチさん(74)は「得意分野を生かして案内しています。仲間から教わることも多いですね」。

加部金五郎さん(67)さんは「退職後の支えになればと始め、地域を知らなかったのが、驚いた感じがしたりの連続です」という。大原文夫さん(71)は「いろいろな人と知り合いになり、郷土のよさを見つけています」と笑顔。

山田代表は「新たに多摩川く諏訪方面のコースも作りました。気軽に声を掛けて下さい」と積極的。連絡は高津区末長一四六の一のBの四〇六 ☎(865) 2525 の大原さん。

文 / 小誌・菅原純子
カメラ / 小誌・井上徳子

身近な地域の歴史を知ってもらおうと、高津区内の史跡や寺社を案内している「高津シルバーガイドの会」 山田利雄代表(81)ら 末にある蓮花寺く久末天照大神く

史跡・寺社を案内する

高津シルバーガイドの会

はりきってます グループ紹介

旋律に感情込め歌う

女声合唱団ゆり(麻生区)

優しく繊細なハーモニーが、毎週火曜日、小田急線百合ヶ丘駅近くの百合丘こども文化センターや、サンラフレ百合ヶ丘団地集会所を包む。それは「女声合唱団ゆり」
 Ⅱ田中みつる代表(52)ら二十四人Ⅱの会員が、歌詞に込められているさまざまな感情を旋律に託し、体全体で表現する芸術性の高いハーモニーである。

練習は午前中の三時間。この日は「長くて短い六つの歌」(林光作曲)の中から「降りつむ」「時(とき)」を繰り返し練習した。
 合唱指揮者の武田雅博さんが「『降りつむ』の難しいところを拾って歌いましょう」とピアノでソプラノ、メゾソプラノ、アルトの全パートを弾く。全員が手や足でテンポをとりながら、楽しさと真剣さが混じり合った表情で歌う。隣の会員との音程や他のパートと響きが溶け合っているかを五感で確かめ合う。

数回合唱すると、武田さんが「雪が降りつむ、という歌詞が何回かありますが、どんな雪か想像して歌ってみましょう」とアドバ

一緒にあゆむ心と
透明な響き大切に



イス。個々人が、歌詞のイメージをいっぱいにくらませ、繰り返し合唱する。体が自然に揺れ出す。「あら、響きが変わったみたい」とつぶやく会員。武田さんも「とてもいいですね。しんしんと降る雪になりました」と声を掛ける。会員たちは、練習を繰り返すうちに歌詞、曲の意味を体全体で理解していく。

一つのパートだけでは単純な旋律が、心も声も技術も全パートが一体になると、芸術性豊かなハーモニーになる。それがコーラスの魅力であることを練習を通して確信する会員に笑顔が絶えない。

同会の誕生は五年前。数十年前に同団地住民主体の合唱団があり、そのメンバー有志での再スタート。昨年、東京都千代田区のカザルスホールで定期演奏会を開き、五百人の聴衆から「心に響く合唱」との励ましの声が寄せられ、三人の新会員を迎えた。

橋本愛美さん(49)は「友達が増え、生活にハリができました」。後藤恒子さん(63)は「歌は明日へのエネルギー。明るく希望がもてます」と目を輝かせる。

入会二カ月の佐々倉満喜子さん(52)は「声をおなかから出すと、気持ちさがさわかになります」。

田中代表は「お互いのレベルの違いを結び合い、一緒にあゆむ心と透明感のある響きを大切にしていきます」と笑顔で話す。

同代表宅は麻生区金程一の一二の八。☎(954)7501。

文／小誌・山本綾子
 (カメラ／小誌・菅原純子)

仲間と楽しく
学ぶ
活動する
生き生きと

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演



「市民健康セミナー」高齢者の排尿障害 ◆市中小企業・婦人会館 6月27日(土) 14時から。「前立腺肥大症と前立腺がん」と題し、山越昌成・聖マリアンナ医科大学東横病院泌尿器科副部長が講演。看護婦、薬剤師の相談あり。無料。当日先着150人。問い合わせは ☎(722) 2121 内線 522の同院総務課。

「わくわく実験教室」 どうして、テープに音と絵が記録できるの? ②パソコン教室 ◆東芝科学館 ①は6月13日(土)10時と13時から実験を交え解説。無料。各250人 ②は6月27日(土)9時半から。ゲームを楽しみながら学ぶ入門コース。対象は小学生以上の親子。無料。先着8組。申し込みは ☎(549) 2200の同館。川崎駅からバス。

「創作教室①陶芸(午前)

②陶芸(午後) ③工作 ④七宝焼 ⑤料理 ⑥ワイプロ ◆市青少年創作センター ①②は7月19日(日)20日(祝)26日(日)31日(金)の4日間。①9時半から②13時半から。①②とも千円。講師は内田可織さん他。7月20日から素焼き、26日から本焼き ③は7月24日(金)〜26日(日)と28日(火)9時半から、全4回。講師は藤井俊彦さん他。千五百円 ④は7月24日(金)〜26日(日)と29日(火)13時半から、全4回。講師は岡崎時江さん他。2千円 ⑤は7月28日(火)〜31日(金)9時半から、全4回。講師は永山和子さん他。2千円 ⑥は7月24日(金)〜26日(日)と28日(火)13時半から、全4回。講師は富士通インストラクター。千三百円。対象は小中学生。定員は⑥12人他は30人。申し込みは7月1日(水)までに往復はがきに ①希望教室名 ②〒③住所 ④氏名 ⑤ ☎ ⑥性別 ⑦学校名 ⑧学年を記して21410034多摩区三田2の330

3の1、同センター。 ☎(911) 1510。

「夏休み親子陶芸教室 ◆川崎市民プラザ」

7月20日(祝)。午前コースは10時から、午後コースは14時から。基礎を学び小物を作る。対象は小学生と保護者。無料。各30組(抽選)。申し込みは7月4日(土)までに往復はがきに住所、親子の氏名、☎、コース名を記して21310014高津区新作1の19の1、同館・同教室係 ☎(888) 3131。

「ハナシヨウブ鉢作り講習会 ◆市緑化センター」

7月3日(金)13時半から。教材費のみ七百円。30人(抽選)。申し込みは6月23日(火)までに往復はがき(1人1枚)に講習会名、住所、氏名、☎を記して21410021多摩区宿河原6の14の1、同所。 ☎(911) 2177。6月10日(水)〜7月5日(日)「ハナシヨウブ展」で120品種展示。

「簿記3級検定準備講座

◆市立労働会館 7月13日(土)10月22日の月・木曜18時15分から、全25回。受講料2万2千円。35人(抽選)。申し込みは7月5日(日)11時に受講料を添えて来館。 ☎(222) 4416。11月22日(日)の全国経理学校協会同試験に向けた講座。 「かんだんリフォーム・バスタオルで作るホームウェア」 ◆登戸ドレスメーカー学院 6月20日〜7月4日の毎週土曜13時半から、全3回。エプロン、ホームドレスを作る。テキスト代込み各千二百円。先着15人。申し込みは午前中に ☎(911) 2221の同院。向ヶ丘遊園駅下車。 ①メタルデザイン〜銀でつくる装身具 ②英検対策講座 ②級 ◆玉川大学 ①は6月6日〜7月4日の毎週土曜13時から、全5回。指輪、ペンダント、ブローチを作る。材料費込み2万円。10人 ②は6月8日〜10月5日(祝日、8月は休講)

市外局番のないものは044

学習・文化情報

の毎週月曜17時半から、全12回。10月の試験に向けた講座。休講のための問題集あり。テキスト代込み2万円。30人。申し込みは ☎0427(39) 8895の同大学継続学習センター。玉川学園駅下車。

「地域消費者問題専門講座 ◆県川崎消費生活センター」

7月2、9日の木曜10時からと16日(水)13時から。「私たちの生活環境を守るために…」をテーマに環境ホルモン、クレジット・サラ金問題、医療について学ぶ。先着80人 7月14日(火)10時から、市南部リサイクルセンターを見学。先着40人。いずれも無料。保育あり。申し込みは ☎(833) 1231 内線332の同館。

①夏休み子ども講座

◆鉄道歴史と川崎 ②同版画・絵画教室 ③同写真教室 ④同まんが教室 ◆市市民ミュージアム ①は7月22日(水)〜24日(金)14時から、全3回。明治以降の川崎の歴史を考

学習・文化情報

参加したい催しがある

える。施設見学あり。対象は小学5・6年。300円、教材費は別。先着30人②は7月25日(土)26日(日)13時から

版画は簡単なドライポイント、絵画は好きな画材で静物画、風景を描く。対象は小中学生、保護者の参加可。受講料は子供各300円、大人各千円。材料費は版画500円、絵画100円。定員は先

着で版画18人、絵画22人③は7月28日(火)30日(木)13時から、全3回。対象は小学3～6年生。受講料300円、教材費500円。先着16人④

は7月31日(金)8月2日(日)14時から、全3回。漫画家が指導。対象は小学3～中学1年生。受講料300円、教材費500円。先着30人。申し込みは①7月7日(火)②

8日(水)③9日(木)④10日(金)の9時半から☎(754)45000の同館。

朗読(夜間)講習会◆市中部身体障害者福祉会館7月8～22日の毎週水曜18時半から、全3回。朗読、録音図書制作の基礎を学ぶ。講師は福島正美・朗読サークル「かざぐるま」代表。無料。20人(抽選)。申し込みは6月27日(土)までに往復はがきに講習会名、住所、氏名、☎を記して21110068中原区小杉御殿町2の114の1、同館。☎(733)9675。

「16ミリ映写機操作技術講習会◆麻生市民館」7月5日(日)9時から。テキスト代500円。先着30人。申し込みは6月21日(日)10時から☎(951)13000同館。

「①中高年齢者向けパソコン講習」ロミオとジュリエット」。当日先着各500人②は7月4日(土)18時から。笹竹かざりや折り紙、映画「デイズー短編集」上映など。対象は幼児・小学生と保護者。当日先着千人③は7月5日(日)12時から。プ

催し



「懐かしの映画劇場②七夕まつり③ジャズフェスティバル◆川崎市民プラザ」

①は6月27日(土)14時と18時に。フランコ・ゼフィレッ

コン講座②パソコン基礎コースI③単体インターネットホームページ制作I◆市産業振興会館」①は6月22日(月)24日(水)26日(金)9時と13時半から、全各3回。各1万3千円②は6月9～23日の毎週火曜9時から、全3回。2万4千円③は6月18時から、全6回。2万6千円④は6月8～24日の毎週月・水曜18時から、全6回。2万7千円。いずれも初心者向け。先着各8人。申し込みは☎(548)4119の同財団情報開発課。

「①表計算(Excel)応用講座②データベース初級講座③パソコン基礎コースII④Lotus Notes入門講座⑤デジタル写真加工講座◆市産業振興

口とアマチュアのビックバンドが熱演するジャズ演奏会。当日直接。いずれも無料。問い合わせ☎(888)3131の同プラザ。

「①園内古民家解説ツアー②わら細工③こども体験教室④竹細工◆日本民家園」

会館」①は6月17日(水)。1万2千円②は6月12、19日の金曜。2万円③は6月6～27日の毎週土曜、全4回。3万6千円④は6月17日(水)1万1千円⑤は6月25日(木)スキヤナ編。1万1千円。いずれも時間は9時から。経験者向け。先着各8人。申し込みは☎(548)4119の同財団情報開発課。

「文学講座」町角に灯を◆アートホール新町」6月3～24日の毎週水曜19時から、全4回。「近代文学の心」と作品と「その心」をテーマに川端康成、太宰治、樋口一葉、遠藤周作の作品を。講師は浜名徳有さん。1回500円。申し込みは☎(244)3235の土屋さん。川崎新町駅下車。リバーカレントの会主催。

①は6月6日(土)13時半、原家集合。職員が民家の特徴や見どころをわかりやすく解説。雨天決行。無料。入園料必要。直接来園②は6月21日(日)10時～15時、作田家。健康ブームで見直されている「ぞうり」を作る。

「文学講座」町角に灯を◆アートホール新町」6月3～24日の毎週水曜19時から、全4回。「近代文学の心」と作品と「その心」をテーマに川端康成、太宰治、樋口一葉、遠藤周作の作品を。講師は浜名徳有さん。1回500円。申し込みは☎(244)3235の土屋さん。川崎新町駅下車。リバーカレントの会主催。

宅地建物取引主任者答案練習講座

受講者募集

- 日 時——7月18日～10月10日の土曜14時～16時半、全10回
- 会 場——市生涯学習振興事業団(小田急線新百合ヶ丘駅下車)
- 受講料——15,000円
- 教材費——17,500円
- 定 員——50人(抽選)

★申し込みは、6月16日(火)～18日(木)10～17時に☎(952)5000の当事業団

学習・文化情報

ききたい音楽がある

受講料700円。定員30人

(抽選)③は6月27日(土)10時、作田家。竹でスコップを作る。小く高校生。先着10人。無料。入園料不要④は7月12日(日)10時〜15時、作田家。「四ツ目たて型花籠」を作る。受講料千円。

定員30人(抽選)。申し込みは②は6月8日(月)必着④は6月29日(月)必着で往復はがきに住所、氏名、☎、講座名を記して21410032多摩区枳形7の1の1同園③は6月1日(月)から☎(022)210801。

「ふれあいバザー」◆特別養護老人ホーム緑陽苑」6月14日(日)10時〜15時。雨天決行。衣類、日用雑貨、書籍▽焼きそば、おでんなどの模擬店▽楽しい子供の広場。問い合わせは☎(988)5010の同苑。栗平

ステージ

「鉄道員」京浜協同劇団

公演◆スペース京浜(ほか)6月13日(土)14時と19時▽14日(日)14時▽15日(月)16日(火)19

駅下車。

「①星を見る夕べ②星の撮影教室」◆市青少年科学館①は6月6日(土)20日(土)19時半。二重星、M13星を。雨、曇りはプラネタリウムで。当日直接来館②は7月3日(金)19時。月齢9日の月を。雨、曇りは中止。対象は小学5年以上(小学生は要保護者)。先着10人。一眼レフカメラボディ、フィルム、リリース持参。申し込みは6月5日(金)9時から☎(022)4731の同館。

「ミニ観察会」◆生田緑地」6月7日(日)は植物を。9時50分に市青少年科学館前集合▽14日(日)は地層を。9時50分に同館実験室集合▽21日(日)はキノコを。9時50分に同館前集合。いずれも無料。当日直接。雨天決行。図鑑、ルーペ、双眼鏡持参。

日(金)19時▽20日(土)14時と19時▽21日(日)14時。会場はスペース京浜(鹿島田駅)。7月1日(火)2日(水)3日(金)19時▽4日(土)14時と19時▽5日(日)14時。会場は相鉄本多劇場(横浜駅)。雪深い炭

問い合わせは☎(922)4731の同館。

「親子ハーモニークランド in あさおろひとりで悩まないで・エンジョイ子育て」◆麻生市民館」6月25日(木)10時半と13時半。手遊び、読み聞かせ、情報交換など。いずれも対象は1歳半までの乳幼児がいる人と妊娠中の人。無料。当日直接。問い合わせは☎(951)1300の同館。

「地域教育会議」子ども幸せを考えるつどい◆麻生市民館」7月18日(土)13時半から講演会。14時40分から分科会。テーマは「生きる力・伸びる力」「感動する心」「父親の役割」。無料。先着50人。申し込みは6月16日(火)から、来館または電話で☎(951)1300。

坑町の小さな駅の男の物語。浅田次郎の直木賞受賞作品を劇化上演。脚本は山本忠利。前売り券は大人2千500円、高校生以下千500円。問い合わせは☎(511)4951の同劇団。

川崎市民オペラの演奏会

第4回 ゴールデン・コンサート

《愛はオペラのきほんです》

6月12日(金)午後6時30分開演

多摩市民館大ホール

(小田急線向ヶ丘遊園駅下車)

入場料 2,500円(全自由席)

- 曲目 「フィガロの結婚」「ラ・ボエーム」他のハイライト
- 出演 佐藤征一郎、渡辺由美香、辻秀幸、白幡武ほか

問い合わせ ☎(811)5383の事務局

名作オペラのおさそい

聴かせます 泣かせます 楽しませます!!

二人のヒロインの悲劇

6月5日(金)午後7時開演

麻生市民館大ホール

(小田急線新百合ヶ丘駅下車)

入場料 2,000円(全自由席)

- 曲目 「椿姫」「カルメン」「蝶々夫人」より
- 出演 大川隆子、佐竹由美、工藤容子、吉村泉、森俊孝、宗孝史

前売り ☎(951)1300の同市民館
問い合わせ

学習・文化情報

やりたいスポーツがある

「夏休み子どもバスケットボール入門◆高津スポーツセンター」7月23日～8月7日の毎週木・金曜、27日(休)～30日(日)の10時から、全10回。600円。対象は小学4～6年生。50人(抽選)。申し込みは6月25日(休)9時55分に同館に集合。問い合わせ

スポーツ



「暑中げいこ◆石川記念武道館」7月22日(休)～24日(金)10時～20時半、全3回。剣道・柔道・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなたのけいこを。小学生以上。剣道百人、その他は50人(抽選)。無料。申し込みは7月12日(日)9時55分に同館に集合。問い合わせは☎

「少年スポーツ教室◆市体育館」7月21日～8月25日の毎週火曜10時から、全6回。体操やトランポリンを。対象は小学生。60人(抽選)。受講料は1回60円。申し込みは7月11日(出)9時55分に同館に集合。問い合わせは☎(200)3255。

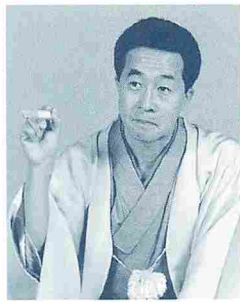
「夏休み短期水泳教室◆川崎市民プラザ」1期7月21日(火)～25日(土)2期7月27日(月)～31日(金)3期8月17日(月)～21日(金)4期8月24日(月)～28日(金)。いずれも8時～9時。対象は5歳以上中学生まで。各先着百人。受講料5千円。申し込みは6月28日(日)から、受講料を添え来館。☎(888)3131。



「瀋陽京劇院川崎市友好公演◆市教育文化会館」6月20日(土)13時半開演。「両狼関」は女將軍の華麗な立ち回りマ「拾玉鑊」は娘の恋物語をバントマイムでマ

「真假美猴王」は孫悟空のにせものが現れるコメディ。II写真上。S席5千500円、A席4千500円、B席3千500円。問い合わせは☎(863)2589の同院川崎公演事務局。
①クール・ド・メール コンサート②モダンダンス・パフォーマンス◆サカモト・ミュージック・スクール鷺沼校①は6月28日(日)14時半開演。マスカリーニ「アヴェ・マリア」マドボルザーク「家路をさして」ほか。指揮は坂本博士②は7月5日(日)14時半開演。E・サティ「風変わりな美女・操り人形は踊ってる」。

出演は内田千恵子、泉清美ほか。いずれも千円。当日先着150人。問い合わせは☎(854)6581。鷺沼駅下車。
「糀金曜寄席」竹の水仙◆ギャラリー糀」6月5日(金)19時開演。出演は林家錦平II写真。前売り千300円、



会98◆洗足学園前田ホール」6月13日(土)15時開演。ピバルデイ「ディクシットドミヌス」マブラームス「ジプシーの歌」。指揮は川名佑一。全自由席2千円。詳細は☎(811)8256の高橋さん。溝の口駅下車。
「音楽の親善大使」ハーバード大学アカペラグループ「クロコディオロス」ジャズコンサート◆市国際交流センター」6月29日(月)16時開演。世界を演奏旅行している同大学現役学生の公演。大人2千円、小学生千円。2百人(抽選)。申し込みは6月16日(火)までに☎(435)7000の同協会。

佐藤征一郎バス独唱会

R. シュトラウス歌曲の夕べ

7月2日(休) 午後7時開演

津田ホール
(中央線千駄ヶ谷駅下車)

入場料 5,000円 (全自由席)
(学生 3,500円)

W. RIEGER (ピアノ)
磯 恒男 (ヴァイオリン)

●曲目 谷間(日本初演)、孤独(同)、夜、
黄昏の夢、僕は愛を抱いている 他

★問い合わせは、日本モーツァルト工房 ☎856-7428 (午後8時以降)

学習・文化情報

みたい絵がある

ギャラリー



「スナック喫茶琴」6月20日(土)まで、石黒忠夫「モノクロ写真展」▽6月22日(月)～7月4日(土)、能勢直子「はがき絵展」。問い合わせは☎(544) 0507。鹿島田駅下車。

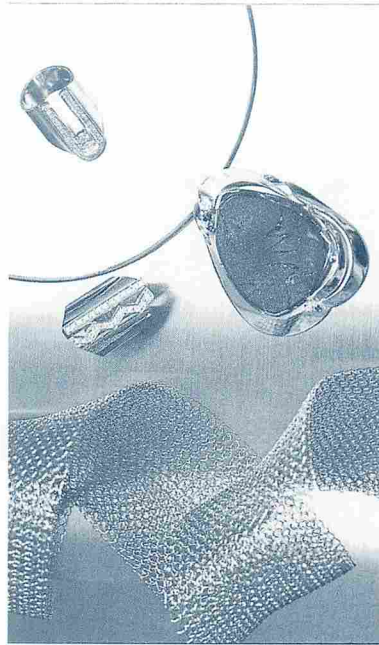
「会館とどろき」6月1日(月)～8日(月)、退職教師の「趣味の会写真展」▽6月29日(月)～7月6日(月)、市内児童生徒の「歯の衛生に関する図画・ポスターの作品展」。問い合わせは☎(733) 33333。

「中村正義の美術館」6月13日(土)～7月12日(日)、中村正義と人人展。田島征三



の作品40点。「霜枯れの畑にいるバツタの霊」Ⅱ写真Ⅱ他。一般500円、学生300円、小中生200円。☎(953) 4936。読売ランド前駅からバス。

「芳彩会」会員の水墨画を展示。☎(344) 6444。川崎新町駅から徒歩。4。川崎新町駅から徒歩。「画廊ランプ屋」6月12日(金)～20日(土)「粉奈和子彫金展」。天然石を使ったアークセサリーⅡ写真Ⅱやパネ



ル60点。☎(944) 4416。稲田堤駅下車。「市民ミュージアム」6月28日(日)まで、カラム・コルヴィン作品展「七つの大罪と四終」。キリスト教の世界像を題材に、現代英国写真家がコンピュータ技術で画像合成した写真▽6月16日(火)から「現代版画名品展」。横尾忠則、アンディ・ウォールホルほか。一般300円、小～大学生100円。☎(754) 4500。

「ギャラリー幸」6月19日(金)～24日(水)、青木教室展。幸区の青木一治さんの絵画教室生徒の作品。☎(555) 8181。川崎駅西口下車。連絡は☎(755) 8658の同代表。

「リフレッシュ教室」(川崎区渡田山王町1の5、三村一江代表)ストレッツ体操で心地よい汗をかきませんか。脂肪を燃やし、骨粗しょう症の予防にも効果があります。講師は越智妙恵子・高齢者体育指導員です。毎週金曜13時半から、アートホール新町(川崎新町駅

下車)。入会金なし、月会費3000円。連絡は☎(333) 4825の同代表。

●女声合唱団ゆり《麻生区金程1の12の8、田中みつる代表》邦人作品を中心に、芸術性の高い音楽を目標に楽しく歌っています。指導は、日本合唱指揮者協会の武田雅博先生です。毎週火曜10時から、サンラフレ集会所ほか(百合ヶ丘駅から徒歩5分)。入会金2000円、月会費5000円。連絡は☎(955) 3608の堀まで。

会員募集

●初蝶俳句会《中原区木月595、荒久子代表》15人の会員で和やかに活動しています。月1回、吟行もします。句会は第4木曜13時から、県高津合同庁舎。入会金なし、月会費千円。連絡は20時以降に☎(411) 1650の同代表。

●みのり会《中原区下小田中2の37の9、高橋三和子代表》自分史、時代をどう歩んできたかを文章にして生きがいを感じませんか。青木信雄・前産能大講師が初歩から指導するので安心して書けますよ。年2回、文集「みのり」の編集もします。活動は、第4火曜14時から、高津市民館ほか。入会金なし、月会費千円。

●アクティブ英会話《川崎区鋼管通1の2の2鋼和寮C棟、前原純子代表》自由で笑いの絶えない雰囲気自慢です。講師はニユーワールドスクールのポップ・ライト校長です。気軽に遊びに来てください。3カ月10回のペースで土曜10時から、市教育文化会館ほか。費用は、3カ月で1万5000円。連絡は☎(344) 5476の同代表。

●川崎インターナショナルすみ絵サークル《宮前区馬絹1833の2、久徳美



ミニニュース

一緒に歌うお年寄り

ゆりがおかがミニコン
「かわさきの天使の歌声」
といわれる「ゆりがおか児
童合唱団」(指揮・山田榮
子、ピアノ・西山淳子、団

江子代表)自然に親しみ、
気軽に楽しんで絵を描いて
います。初心者の方を対象
に募集します。年2回、外
国人のための講習会を開き、
日本文化の紹介もします。
活動は、月3回。第2〜4

水曜13時半からは、市国際
交流センター、同火曜13時
からは、高津市民館。月会
費3千円。入会金なし。問
い合わせは☎(852) 3
999の同代表。

員50人)が4月初旬、麻生
区片平の特別養護老人ホー
ム「金井原苑」で、50人の
お年寄りを前に懐かしい唱
歌や童謡のミニコンサート
をした。

同合唱団の子供たちが、
やや緊張した面持ちで「春
の小川」「おぼろ月夜」を
歌い始めると、すぐにお年
寄りたちが身を乗り出し、
歌に合わせて手拍子。曲に
合わせて体が左右に揺れ、
一緒に歌うおばあさんもい
て、合唱団の子供たちもリ
ラックス。部屋に居たお年
寄りも流れてくる合唱団の
歌声に誘われるように会場
に来て「ああ、懐かしい。
元気できれいな歌声をいた
だいた」と車いすのおばあ
さんは話す。
合唱団員が「みなさまに
とっては終戦後、ラジオが

ら流れてきた懐かしい歌で
はないでしょうか」と「み
かんの花咲く丘」をナレー
ション。会場のあちろち
らから「そうそう」とうな
ずく声がある。子供たちと
お年寄りの心が終始一体に
なったコンサートになった。
演奏が終わると、お年寄
りが別れを惜しみ、子供た
ちの手を握りながら「懐か
しい歌をありがとう」「ま
た来て下さいね」と明る
い声で感謝していた(Y)。

個々の子供の可能性を

山田太一さん講演
4月上旬に新百合21ホー
ルであった「おやしサミッ
ト in 川崎」で、シナリ
オライターの山田太一さん
が講演した。

山田さんは、20世紀はず
べてを2次元的にみる時代
だった。おやしはその象徴
で、生活は「家庭か仕事」
「会社か個人」、子供の教
育にも「スバルタか放任」
だったと、生活密着型ライ
ターとしての分析をした。
しかし「実際に生活する
中での『対象』と生き生き
とかわかっていれば、中間

の基準も決められる」と述
べた後、子供について「そ
れぞれが才能と限界を持つ
て生まれてくるのだから多
様なはず。思いどおりにな
らないところに注目して、
個々人それぞれのエネルギー
と可能性を見いだすこと
が現実を観察するうえで大
切」と話した。

かつて、すべての子供に
同じ教育機会を与えれば、
同じように幸せになるかの
ような教育論が流行したが、
山田さんの話は日常性があ
り、多くの人々に安心感を
与え納得させる(I)。

自分を表現しよう

おやしサミットで宣言
「輝くおやしは明日を拓
く市民としておやしとし
て何が出来るか」をテーマ
に、4月初旬、新百合21ピ
ルで「おやしサミット in
川崎」があった。

この会を開いたのは県内
の「おやしの会」9グルー
プで「仕事人間」を脱して
「地域人」として活動を楽
しもうという男の集まり。
子供との交流ボランティア、
学習会などを行なっている。

各グループは手話やけん
玉、合唱、スライドで活動
を紹介。川崎市の「ま・い
い会」(高津)「おやしの
会・いたか」(多摩)「お
やし考」(麻生)の3団体
は、遊び心いっぱいのパフ
オーマンスで会場を沸かせ
た。

「新しいおやし像めざし
て家庭で地域で大いに自分
を表現しよう。男女の未来
を拓く新しいパートナーシ
ップを築いていこう」との
「おやし宣言」を採択し閉
会した(S)。

大人の押し付けでは 子供の市民性育たぬ

中学生の殺傷事件が続発
している中、教育評論家の
尾木直樹さんが「子どもの
思いを受け止めてくこれか
らの教育改革」と題して4
月下旬、宮前市民館で講演
した。

ある地方の放送局が中学
生や教師にアンケートをし
たところ、子供のことが一
番分かっているのが教師
次いで母親という結果で、
このことから尾木さんは、
「子供は『目標』に到達する

ことが素晴らしい」という大人の期待する人間像の押しつけにイライラしている。自分をそのまま受容し、共感してほしいという気持ちが強い」と分析した。

また、事件に対する子供達の反応から「パソコンやメディアを通して「コミュニケーション」など、先端の情報文化の受発信能力は大人より子供のほうがある」といい、そうした新しい力は子供の市民性を育てると樂觀。「これからは、子供も大人と対等に共同参画する時代になる」と、今の子供はダメ論「をやんわりと否定した。主催は教育を考へる「にじの会」(S)。

体の不自由な人の服は着脱しやすいほうが：

障害者や高齢者、病気療養中の人が着脱しやすい服や小物50点を展示した「体にやさしいおしゃれな服展」がこのほど、多摩市民ギャラリーであった。

足の不自由な人が楽にはけるズボン、毛布を利用した車いす用の防寒着、片手で締められるネクタイなど、

市販品にマジックテープやファスナーを付けてリフォームした作品が目をひく。作り方紹介コーナーでは、大勢の市民が説明に耳を傾け、ちよつとした工夫で既製服が使い勝手のよいもの

に変わるアイディアに感嘆していた。

作品展を開いた「ポランティアサークル系の詩」のメンバー14人は、月に1度、登戸ドレスメーカー学院で持ち寄りの材料でリフォームして、高齢者や障害者に試着してもらい意見を聞き、改良を重ねてきた(S)。

匠巻！チェロ協奏曲

川響の定期演奏会 川崎市民交響楽団の第144回定期演奏会が4月中旬、エポックなかはらであり、8百人の観衆がオーケストラの迫力ある響きに陶醉した。

演奏会は、チェロ独奏の丸山泰雄さんを迎えて、ドヴォルザーク「チェロ協奏曲」、ベートーヴェン「交響曲第3番「英雄」の名曲を熱演した。指揮の藤本潤さんと青年からお年寄りま

での幅広い年齢層の団員たちの息はピッタリで、複雑なリズムや難しい音程を見事なまでにこなし、46年の川響の伝統ある響きが会場を包んだ(Y)。

関西にも読者が…… 励まされたスタッフ

「チラシづくりや生涯学習の大切さを学ぶの参考にしたいので『ステージ・アップ』のバックナンバーを送ってほしい」と4月初旬、大阪府松原市のポランティア団体メンバー、高橋美千子さんから小誌編集チームに電話があった。松原の市民がなぜ小誌を知っているのか、興味を覚えたスタッフが高橋さんに聞くと「人づてというか、風の便りで見ました」と明るい声。スタッフは「関西にも読者がいる」と、この日、晴れ晴れとした気持ちだった(Y)。

お願い 当欄に情報をお寄せ下さい。掲載号の原稿の締め切りは前々月の末日です。「読者の声」の投稿もお待ちしています。

編集後記

最近、女性の読者の方に会いするたびに「今年になって『いまを話す』のゲストがズーッと

ネサンヌ時代の人間謳歌(わうか)ではやってゆけないのではないか。自分をちっぽけな、頼りない存在と見え、もつとつつましく、目を伏せて生きるほうがいいのではないか」▼「本当のプラス思考とは、絶望の底の底で光を見た人間の全身での驚きである。そしてそこへ達するには、マイナス思考の極限まで降りてゆくことしか出発点はない。私たちはいまたしかに地獄に生きています。しかし私たちは死んで地獄へ墮ちるのではない」ところで小誌は生涯学習情報誌で、表紙に「市民がつくる 市民が学ぶ 市民が拓く 生涯学習情報誌」と明示している▼「いまを話す」が川崎市や市教委の公式見解でないことはいうまでもない▼文部省の寺脇研・生涯学習振興課長は「いまの学校が教育の場から学びの場に変わるのが大切」と著書やテレビで繰り返しいう▼「教育」と「学び」の相違が分からないと「ヘンテコ」な質問を發することになる(田)。

の言葉を頂戴する▼「いえ、三月号は男性です。介護保険で……」「ああ、そうでした。でも、あの問題は女性の問題でもあるので」「はあ」といった調子▼さて、今号ゲストは若い女性の間でブームになりつつあるガラス工芸の工藤直さん▼小誌としては新ジャンルなので、読者の反応が今から気に掛かる▼五月号の津田妙子さんの「プラス思考の自己啓発のすすめ」も新ジャンル▼津田さんの著書「プラス・ルネサンスの生き方」(新人物往来社)とは対照的なのが五木寛之著「大河の一滴(幻冬舎)で、ベストセラーになった▼同書の一部を照会すると――▼「いま、人間は少し身を屈する必要があるのではないだろうか。いつまでも